「生活科」に関する小学校教師の意識について（第２報）

金子博美，奥井智久*，田矢一夫

Research on the Attitudes of Primary School Teachers toward the new subject “Life Environmental Studies”（2）

Hiromi Kaneko, Tomohisa Okui*, Kazuo Taya

1. はじめに

本年4月から、新教育課程に基づいて「生活科」が小学校1，2年生において完全実施された。昨年までの移行期では、この教科の実施を巡って教育現場で少なくとも不安や期待、それに混乱が予想された。このような事態に対応し、新設教科「生活科」に対する在り方、考え方、授業運営の仕方などについて研究・研修を行うため、本学教育研究所では、「生活科に関するワークショップ」を開催した。また、わが国の教育界では、生活科の解説書、教科書、指導事例集、授業研究書1)～4)等の出版がなされ、生活科の専門雑誌の発行に続いて、最近では各界の知識人と現場教師の研究会5)、教師会の授業研究会6)7)など数多くの活動がなされている。これらの活動を通じて、新設「生活科」も、かなり教育現場に周知されてきたように思われる。

このような状況の中で、移行期であった昨年の「生活科」に対する教師の理解、期待や不安は、完全実施された本年の段階ではどのように意識や態度・姿勢に変わったか、教师はどのように姿勢で生活科の授業に臨んでいるのか、その実態を知ることは生活科を評価し、発展させるために重要な資料になるものと思われる。そこで、昨年著者らが行った生活科に対する小学校教師の意識調査8)と同様な調査を本年も継続して実施し、昨年「生活科」を担当していなかった教師と、本年「生活科」を担当している教師の意識の差異について比較・検討を行うことにした。得られた結果について以下に報告する。

2. 研究方法

平成3年8月28・29日に本学で開催された第1回「生活科に関するワークショップ」の参加教師に行ったアンケート調査の回答のうち、当時「生活科」を担当していたなかった72名についての結果を一方の資料とした。これに対して平成4年8月26・27日に本学教育研究所が主催した第2回「生活科に関するワークショップ」に参加した小学校教師を対象に、昨年実施した質問事項に若干の事項を加えてアンケート（別掲）調査を行い、その回答のうち、「生活科」を現在担当している66名の

*宇都宮大学教育学部教授
回答結果をもう一方の資料として、双方の結果を比較することにより教師の意識の変容を明らかにすることにした。

3. 調査結果

(1) 回答者の属性

昨年「生活科」を担当していなかった回答者は、男性5名（7.0%）、女性66名（93.0%）で、無回答1名であった。今年「生活科」を担当している者は男性2名（3.0%）、女性64名（97.0%）で、無回答1名で、両年とも多い。教師歴では昨年は11～20年が62.0%、今年も同じ教師歴が72.3%を占めて中心をなしている。担当学年は、昨年低学年の者が43.7%であったが、今年は92.3%であった。

(2) 生活科に対する姿勢

生活科に対する姿勢については6つの方項目を挙げ、その印象を複数選択で回答を求めた。その結果、表1に示すように、昨年と今年を比較すると「やるにくい」は51.4%から34.8%、「難しい」は44.4%から30.3%にそれぞれ減少し、「楽しい」は50.0%から65.2%へ、「おもしろい」は47.0%から62.1%に増加している。なお、「おもしろい」、「やるにくい」の回答には数値的に有意な変化が認められた。

また、この質問項目の回答は複数回答であったことから、回答状況のクロス表を作成し表2に示す。昨年の回答では「おもしろい」「楽しい」という回答と同時に、「難しい」「やるにくい」という回答を行っている者が多く見られたが、今年はその回答割合が昨年より減少している。

表2 生活科の印象の回答クロス表
（ ）内は回答者総数に対する割合を示す。

【昨年】
1. おもしろい
2. 他教科と同じ
3. やりやすい
4. 楽しい
5. 難しい
6. やりにくい
回答者総数 38(100.0) 1(0.0) 0(0.0) 0(0.0) 37(97.0) 1(2.8)

【今年】
1. おもしろい
2. 他教科と同じ
3. やりやすい
4. 楽しい
5. 難しい
6. やりにくい
回答者総数 41(100.0) 1(1.5) 0(0.0) 0(0.0) 36(95.0) 3(7.5)

(3) 生活科の考え方

「生活科」の考え方については、学習活動に関する3項目を挙げ、それぞれを「そう思う」「そう思わない」「わからない」から選択する方法で回答を求めた。その結果を表3から表5に示す。3項目ともに昨年と統計的に有意な変化は見られず、「先生がすべての教材を用意して丁寧に教える」ことが適当と思われる者は昨年94.4%，今年97.0%である。また、「子供自身にやらせる」ことが適当と思う者は昨年80.6%，今年75.8%，「子供が用意・工夫する」ことが適当と思っている者は、昨年88.7%，今年89.2%である。

表3 すべての教材を用意して教える
（ ）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>2(2.8)</td>
<td>67(94.4)</td>
<td>2(2.8)</td>
<td>71(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>1(1.5)</td>
<td>64(97.0)</td>
<td>1(1.5)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表1 生活科に対する印象（複数回答）
（ ）内は回答者総数に対する割合を示す。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>おもしろい</th>
<th>他教科と同じ</th>
<th>やりやすい</th>
<th>楽しい</th>
<th>難しい</th>
<th>やりにくい</th>
<th>回答者総数</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>38(41.7)</td>
<td>1(1.4)</td>
<td>0(0.0)</td>
<td>36(50.0)</td>
<td>32(44.4)</td>
<td>37(51.4)</td>
<td>72(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>41(62.1)</td>
<td>2(3.0)</td>
<td>0(0.0)</td>
<td>43(65.2)</td>
<td>20(30.3)</td>
<td>23(34.8)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

p<0.05
表4 子供自身にやらせる（）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>昨年</th>
<th>今年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>そう思う</td>
<td>80.6</td>
<td>75.8</td>
</tr>
<tr>
<td>そう思わない</td>
<td>18.1</td>
<td>16.7</td>
</tr>
<tr>
<td>わからない</td>
<td>1.4</td>
<td>7.6</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0</td>
<td>66.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表5 子供が用意・工夫する（）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>昨年</th>
<th>今年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>そう思う</td>
<td>88.7</td>
<td>89.2</td>
</tr>
<tr>
<td>そう思わない</td>
<td>5.6</td>
<td>9.2</td>
</tr>
<tr>
<td>余計な考え方</td>
<td>5.6</td>
<td>1.5</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0</td>
<td>65.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(4) 生活科の内容

「生活科」の内容に対する考え方を「扱いやすい」「普通」「扱いにくい」と選んで回答を求めたところ、表6から表8に示すような結果が得られた。3つの質問項目とも昨年と統計的に有意な差は見られないが、「子供と自然とのかかわりを扱う内容」では、昨年は「扱いにくい」が31.9％、「扱いやすい」が23.6％であったが、今年は両者の回答がほぼ同率となった。しかし、「普通」という回答が両年とも一番多くを占めている。「子供と社会とのかかわりを扱う内容」では、昨年は「扱いにくい」が50.0％を占め、「普通」44.4％、「扱いやすい」5.6％であったが、今年は「普通」が57.6％、「扱いにくい」33.3％、「扱いやすい」9.1％となった。また、「子供の学校や家庭での役割を扱う内容」では両年ともほとんど回答に変化が無く、「扱いやすい」が両年とも33.3％、「普通」が約50％を占め、「扱いにくい」は20％に達していない。

表6 子供と自然とのかかわり（）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>昨年</th>
<th>今年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>扱いやすい</td>
<td>23.6</td>
<td>21.2</td>
</tr>
<tr>
<td>普通</td>
<td>44.4</td>
<td>56.1</td>
</tr>
<tr>
<td>扱いにくい</td>
<td>31.9</td>
<td>22.7</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0</td>
<td>66.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表7 子供と社会とのかかわり（）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>昨年</th>
<th>今年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>扱いやすい</td>
<td>5.6</td>
<td>9.1</td>
</tr>
<tr>
<td>普通</td>
<td>44.4</td>
<td>57.6</td>
</tr>
<tr>
<td>扱いにくい</td>
<td>36.0</td>
<td>33.3</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>100.0</td>
<td>66.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(5) 生活科の指導法

「生活科」の指導法については、子供の活動に関する考え方を9つの質問項目に分け、「扱いやすい」「普通」「扱いにくい」の3段階で回答を求め、この結果を昨年と比較した。その結果を表9から表17に示す。この中で、昨年と、統計的に有意の差があったのは「自然や社会の観察」「物を製作する」「いろいろな人と話をする」の3項目で、このいずれの項目とも昨年より「扱いにくい」割合が減少し、「扱いやすい」割合が増加している。中でも「物を製作する」では「扱いやすい」が

図1 自然や社会の様子を観察する

図2 物を製作する

図3 いろいろな人と話をする
昨年36.1％であったものが、今年は70.8％になった。他の質問項目では統計的に有意な差は見られなかったものの、一部を除き昨年よりも「扱いにくい」という回答割合が減り、「扱いやすい」という割合が増加する傾向が見られた。

表9 自然や社会の様子を観察する（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>7 (10.0)</td>
<td>34 (48.6)</td>
<td>29 (41.4)</td>
<td>70 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>14 (22.2)</td>
<td>37 (58.7)</td>
<td>12 (19.0)</td>
<td>63 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>P</td>
<td>&lt;0.01</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表10 動・植物を育てる（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>18 (25.0)</td>
<td>30 (41.7)</td>
<td>24 (33.3)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>12 (18.5)</td>
<td>30 (46.2)</td>
<td>23 (35.4)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>P</td>
<td>&lt;0.01</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表11 物を製作する（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>26 (36.1)</td>
<td>44 (61.1)</td>
<td>2 (2.8)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>46 (70.8)</td>
<td>18 (27.7)</td>
<td>1 (1.5)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>P</td>
<td>&lt;0.00</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表12 いろいろな人と話をする（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>5 (6.9)</td>
<td>38 (52.8)</td>
<td>29 (40.3)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>10 (15.4)</td>
<td>42 (64.6)</td>
<td>13 (20.0)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>P</td>
<td>&lt;0.05</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

表13 言葉で表す（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>14 (19.7)</td>
<td>50 (70.4)</td>
<td>7 (9.9)</td>
<td>71 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>16 (24.6)</td>
<td>44 (67.7)</td>
<td>5 (7.7)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表14 文章に表す（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>13 (18.1)</td>
<td>45 (62.5)</td>
<td>14 (19.4)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>20 (30.8)</td>
<td>38 (58.5)</td>
<td>7 (10.8)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表15 絵で表す（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>42 (59.2)</td>
<td>28 (39.4)</td>
<td>1 (1.4)</td>
<td>71 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>48 (73.8)</td>
<td>16 (24.6)</td>
<td>1 (1.5)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表16 動作で表す（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>17 (23.9)</td>
<td>45 (63.4)</td>
<td>9 (12.7)</td>
<td>71 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>15 (23.1)</td>
<td>45 (69.2)</td>
<td>5 (7.7)</td>
<td>65 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表17 効で表す（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>扱いやすい</th>
<th>普通</th>
<th>扱いにくい</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>6 (8.3)</td>
<td>36 (50.0)</td>
<td>30 (41.7)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>10 (15.6)</td>
<td>35 (54.7)</td>
<td>19 (29.7)</td>
<td>64 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(6) 授業運営への協力
「生活科」の授業における教師相互、地域住民などの協力に対する意識について、3項目の質問を行った結果を表18から表20に示す。3項目ともに昨年とはほぼ同様な回答割合であり、「低学年の先生方が一緒に計画を立てたり活動を行ったりして協力し合う」「家庭や地域の方々と連絡を取り合って協力してもらう」という質問項目では、「そう思う」という回答が若干増えて95％を超えている。また、「特別な技能をもった人に来てもらって一緒に活動する」ことが適当と思っている者は全体の3分の2程度を占めている。

表18 低学年の先生方が協力しあう（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>62 (86.1)</td>
<td>8 (11.1)</td>
<td>2 (2.8)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>63 (95.5)</td>
<td>2 (3.0)</td>
<td>1 (1.5)</td>
<td>66 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表19 家庭や地域との連絡を取り合っての協力（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>67 (93.1)</td>
<td>1 (1.4)</td>
<td>4 (5.6)</td>
<td>72 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>65 (98.5)</td>
<td>0 (0.0)</td>
<td>1 (1.5)</td>
<td>66 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表20 特別な技能をもった人との活動（％）内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>45 (63.4)</td>
<td>11 (15.5)</td>
<td>15 (21.1)</td>
<td>71 (100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>41 (64.1)</td>
<td>11 (17.2)</td>
<td>12 (18.8)</td>
<td>64 (100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(7) 授業に対する心配・不安
「生活科」の授業を行うに当たっての心配事や不安な事柄について18項目の質問を行った。この中には昨年と同じ質問項目「生活科の評価の仕方がわからない」「教材を準備する時間が足りない」「教師自身の体験が不足しているので不安である」の3項目が含まれているが、その他の15項目は新たな質問項目であるので、これについては昨年との比較はできない。
昨年と同一質問項目では、表21から表23に示すように3項目とも「そう思う」割合が多くを占めているが、「教材を準備する時間が足りない」「教師自身の体験が不足しているので不安である」という回答には統計的有意差が見られ、「そう思う」が昨年よりも減少し、「そう思わない」という回答割合が増加している。

また、今年新たに設けた15の質問項目では、表24のように心配や不安をもっている回答「そう思う」の割合が多く、「教材の入手」を除き46.0％から65.6％と「そう思わない」よりも高い割合であった。しかし、「実態調査

表21 評価の仕方がわからない ( ) 内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>63(90.0)</td>
<td>5(7.1)</td>
<td>2(2.9)</td>
<td>70(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>54(81.8)</td>
<td>12(18.2)</td>
<td>0(0.0)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表22 準備時間が足りない ( ) 内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>68(95.8)</td>
<td>1(1.4)</td>
<td>2(2.8)</td>
<td>71(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>55(83.3)</td>
<td>10(15.2)</td>
<td>1(1.5)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

P<0.01

表23 教師の体験不足 ( ) 内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>昨年</td>
<td>64(90.1)</td>
<td>5(7.0)</td>
<td>2(2.8)</td>
<td>71(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>今年</td>
<td>43(67.2)</td>
<td>13(20.3)</td>
<td>8(12.5)</td>
<td>64(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表24 生活科に対しての心配や不安 ( ) 内は％

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>そう思う</th>
<th>そう思わない</th>
<th>わからない</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>教員の共通理解</td>
<td>39(59.1)</td>
<td>20(30.3)</td>
<td>7(10.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>実態調査の進め方</td>
<td>28(42.4)</td>
<td>31(47.0)</td>
<td>7(10.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>調査の方法・留意点</td>
<td>38(57.6)</td>
<td>18(27.3)</td>
<td>10(15.2)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>生き物の世話</td>
<td>38(57.6)</td>
<td>25(37.9)</td>
<td>3(4.5)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>植物の栽培</td>
<td>33(50.0)</td>
<td>30(45.5)</td>
<td>3(4.5)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>教材の入手</td>
<td>3(4.5)</td>
<td>63(95.5)</td>
<td>0(0.0)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>教科書の活用</td>
<td>23(34.8)</td>
<td>39(59.1)</td>
<td>4(6.1)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>作業用紙の与え方</td>
<td>15(22.7)</td>
<td>44(66.7)</td>
<td>7(10.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>校外活動</td>
<td>42(63.6)</td>
<td>22(33.3)</td>
<td>7(10.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>子供との接触</td>
<td>39(59.1)</td>
<td>34(51.5)</td>
<td>4(6.1)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>授業のまとめ</td>
<td>39(59.1)</td>
<td>18(27.3)</td>
<td>9(13.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>児童の自発性の扱い</td>
<td>42(65.6)</td>
<td>18(28.1)</td>
<td>4(6.3)</td>
<td>64(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>施設の設置・運営</td>
<td>41(62.1)</td>
<td>16(24.2)</td>
<td>9(13.6)</td>
<td>66(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>地域との協力</td>
<td>30(46.2)</td>
<td>27(41.5)</td>
<td>8(12.3)</td>
<td>65(100.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>予算の確保</td>
<td>29(46.0)</td>
<td>25(39.7)</td>
<td>9(14.3)</td>
<td>63(100.0)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

P<0.01
4. 考察とまとめ

本研究は新教育課程への移行期において「生活科」を担当していないかった教師が、本年4月から新教育課程が完全実施となり、実際に生活科を担当することによって、生活科に対する理解、期待、不安などがどのように変化したかを知り、今後の「生活科」教育推進の基礎資料をすることを目的としているものである。

「生活科」に対する期待や不安について見てみると、授業展開において「教師相互や地域住民」「特別な技能をもつ人などの協力」を望むという回答が昨年同様本年も多く占めている。また、「評価の仕方」「準備時間が足りない」「教師の体験不足」を挙げる回答は昨年より若干減少したが、まだ高い割合を示している。さらに、今年のアンケートで新たに加えた15項目のうち、「教員の共通理解」「調査の方法・留意点」「生き物の物語」「植物の栽培」「学校活動」「子供との接触」「授業のまとめる」「児童の自発性の扱い」「施設の設置・運営」など9項目に50%以上の者が心配・不安の回答を寄せている。

しかし、「生活科」に対する期待や不安は少しずつではあるか払拭されつつある兆しも窺える。例えば、生活科の印象にかかわる6つの項目の回答を見ると、昨年に比べて回答割合に統計的に有意差があったものの中では、「おもしろい」が41.7%から62.1%に増え、逆に「やりにくい」が51.4%から34.8%に減少している。また、これらの複数回答のクロス表（表2）でもわかるように、「生活科」を担当しなかった昨年より「おもしろい」「楽しい」と回答すると同時に、「難しい」「やりにくい」という回答をする割合が減少している。これは実際に生活科を担当してみて、その面白さ、楽しさが浸透したためと思われる。今ここを具体的な現れとして、「自然や社会の観察」「物を作成する」「いろ

文獻
1）教員養成基礎教養研究会，佐島群己，奥井智久編：生活科授業研究，教員養成基礎教養シリーズ，教育出版，1992
2）湯本隆司編著：子どもが育つ生活科「実践と教師の役割」，国土社，1991
3）津崎達夫・大谷徹夫・倉上保・原田美智子編著：生活科活動事例集１年，東洋館出版，1992
4）津崎達夫・大谷徹夫・倉上保・原田美智子編著：生活科活動事例集２年，東洋館出版，1992
5）主題「やらせて俺見せんか？子ども四季の遊び」，相馬理科教育，Vol.26，No.11，1992
6）彌崎「生活科授業研究」7月臨時増刊号No.14，明治図書，1992
7）彌崎「生活科授業研究」はどこが違うか，生活科教育研究10月號，No.17，明治図書，1992
8）金子博美，奥井智久，田矢一夫「生活科」に関する小学校教師の意識について，文教大学教育学部紀要第25集54-64，1991
生活科に関するアンケート

この調査は、先生方の“生活科”に対するお考えをお尋ねするものです。調査結果は全体として処理し、個人のデータを示すことはありませんのでお気軽にお答え下さい。

＊ あなた自身にあてはまるもの記号に〇をつけて下さい。

性別　  阿：男性　イ：女性
年齢　 阿：20才代　イ：30才代　ウ：40才代　エ：50才以上
担当学年　 阿：低学年　イ：中学年　ウ：高学年　エ：その他（  ）
教員歴　 阿：5年未満　イ：5－10年　ウ：11－20年　エ：21年以上

＊ あなたは“生活科”を担当していますか。（または、担当することがありますか。）あてはまるもの記号に〇をつけて下さい。

ア：はい　イ：いいえ

1）あなたは“生活科”についてどのような印象をおもちですか。あてはまるもの記号に〇をつけて下さい。（〇は何個でもよい）

ア：おもしろい（おもしろそう）イ：他の教科と同じ
ウ：やりやすい（やりやすそう）エ：楽しい（楽しそう）
オ：難しい（難しそう）カ：やりにくい（やりにくそう）

2）“生活科”の学習活動についてどのようにお考えですか。あてはまるもの記号に〇をつけて下さい。

(1) 先生方がすべての教材を用意して子供に丁寧に教えるようにする。

ア：そう思う　イ：そう思わない　ウ：わからない

(2) 内容によって先生がきちんと教えたたり、あるいは子供自身にやらせたりする。

ア：そう思う　イ：そう思わない　ウ：わからない

(3) 子供ができるだけ自分で物を用意し、作ったり工夫したり進んだりするようにする。

ア：そう思う　イ：そう思わない　ウ：わからない

3) “生活科”には次のような内容があります。それぞれについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものの記号に〇をつけて下さい。

(1) 子供と自然とのかかわりを扱う内容

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(2) 子供と社会とのかかわりを扱う内容

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(3) 子供自身の学校や家庭での役割を扱う内容

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

4）“生活科”の学習においては、子供の活動を変大事にしています。次のような活動についてどのようにお考えですか。あてはまるものの記号に〇をつけて下さい。

(1) 自然や社会の様子を観察する。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(2) 動・植物を育てる。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(3) 物を製作する。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(4) いろいろな人と話をする。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(5) 言葉で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(6) 文章で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(7) 絵で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(8) 動作で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(9) 劇で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい

(10) 言葉で表現。

ア：扱いやすい　イ：普通　ウ：扱いにくい
5) “生活科”では先生どうしの協力や地域の協力（地域のお母さん方などの協力）などが大事であります。あなたはこれについて、どのようにお考えですか。あてはまるものの記号に○をつけて下さい。
(1) 低学年の先生方が一緒に計画を立て、活動を行ったりして協力しましょう。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(2) 家庭や地域の方々と連絡を取り合って協力しましょう。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(3) 特別な技術をもった人になってもらって一緒に活動する。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない

6) 4月から「生活科」を担当してみて（または、担当したと仮定して）どのようなことが心配・不安でしょうか。あてはまるものの記号に〇をつけ下さい。
(1) 生活科について全教員の共通理解のはかりが不安である。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(2) 年間計画計画作成や学校の実態にあわせた指導の手がかりとなる児童の実態調査をどのように進めてらいのかわからない。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(3) 地域教材調査についての方法や留意点がよくわからない。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(4) 生き物（ウサギ・チノ首・金魚・ザリガニ等）の生活について不安である。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(5) 植物を育てる活動（種をまく時期・手入れの仕方・きつたいものの苗の育め方等）について心配である。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(6) 教材（ダンボール・空き箱・空きびん等を含む）の入手の仕方がわからない。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(7) 生活科の教材書をどのように活用したらよいかわからない。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない
(8) 児童の活動に役立つ作業用紙等の種類や与え方がわからない。
ア．そう思う イ．そう思わない ウ．わからない

＊ 最後に生活科の実施にあたりご意見・ご感想などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力どうもありがとうございました。
文教大学理科教育研究室